徘徊・道迷い

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
1	インフォーマルなサービスを活用したケース	月に１回程、遠方へ出かけ、新幹線の無銭乗車や不審行動で警察に保護される。電車で数駅先まで出かけた際に、信号のない場所で道路を横断して交通事故を誘発させてしまった。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	妻と2人暮らし。認知症の診断を受け、数年間は大きなトラブルなく過ごしてきた。家族の中で対応できなくなり、介護認定申請に至った。	デイサービスの利用を試みたが、定期利用に至らなかった。家族に対しては、本人が現金を持たないようにしてもらえるように依頼をした。駅でのトラブルを回避するため、駅員への相談をした。認知症初期集中支援事業への申し込みや地域包括支援センター・区役所と情報共有した。	本人の状況は変わらないが、地域で情報共有し協力体制を整え、家族の不安は軽減した。
2	かえるネットを活用したケース	警察に保護されるたびに夫が事情聴取を受けることが度々あった。そのため、夫は次第に徘徊の際に警察へ通報することを避けるようになってしまった。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	夫と2人暮らし。認知症が徐々に進行しており、徘徊時に警察に保護されることが度々あった。	夫は経済的な事情で介護サービス導入に非協力的であった。息子さんと連絡を取り、長男、次男から経済的な支援を受けられることになった。介護サービスの導入や港北区の「かえるネット」への登録をし、地域との連携を図った。	徘徊はあるが、地域で見守りが進み、家族の安心感は増えた。
3	かえるネットを活用したケース	早朝、夫が目を離した間に外に出てしまった。夕方、二十数ｋｍ離れた場所で保護された。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	高齢の夫と2人暮らし。落ち着かず外に出ようとするため、目が離せない状況である。毎日、夫が本人と１時間以上散歩をしている。	日中は週４回以上、認知症対応型デイサービスを利用することとした。 港北区「かえるネット」に登録した。	「かえるネット」に登録し、地域との連携が図れた。これまでよりも本人が夜眠れるようになったため、夫も少し休めるようになった。
4	かえるネットを活用したケース	外に出て所在が分からなくなることがある。いつもは30分ほどで帰るが、1時間以上帰宅せず消防署で保護されたり転倒して、人に助けてもらう事があった。	訪問看護ステーション 言語聴覚士	息子家族と同居。日常生活動作は自立から見守りの範囲で行えている。物忘れ、言語機能低下が著しく、徘徊がみられている。(1人で突然散歩に行ってしまう)	玄関に「外出をしないで下さい。これからリハビリが来ます」と張り紙をした。 緊急カードを散歩の際に持っていくものに入れておいた。 港北区「かえるネット」への登録をケアマネジャーや家族に促した。	玄関に張り紙をした事で、徘徊する回数が減った。 徘徊があっても緊急カードで連絡をしてもらう事があった。

徘徊・道迷い

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
5	サービスを利用して 対応したケース	どこかに行かなくてはいけないと思っている様子で、週に何度か外出しようとして、引き留めようとすると怒り出す。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	妻を亡くし娘さん家族と同居。もともと認知症があり、引っ越しで進んだのか、家族が同居したので気づいたのか不明だが、徘徊がみられるようになった。	家族が休めるように、認知症対応ができるデイサービスを利用することになった。ショートステイも利用したが、帰ってから落ち着かない状態が続いたためショートステイの利用は中止した。	日中はデイサービスを利用することで、家族は自分の時間を持つことができた。日中起きていることで夜はよく眠れている。認知症が徐々に進行してきたことと本人の体力低下のため、遠くに外出することはなくなった。
6	対応を工夫したケース	帰宅願望が現れ、外に出ようと玄関の扉をたたき始める。	小規模多機能型居宅介護 介護職	夫と2人暮らし。難聴があるが筆談での会話可能である。夜、独り言を言っていることがある。	気分転換をはかるために、車椅子で施設の周りを散歩した。	外に出るとすぐに気持ちが安定し、通行人に挨拶をする様子がみられた。施設に戻ってからも落ち着いていた。